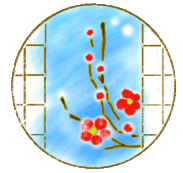


# コイノニア



今年度も残り2カ月となりました。3年生は自由登校に入り、卒業後の新生活の準備を始めている人もいます。1,2年生のみなさんも、進級するための大切なまとめの時期にきています。新年度への期待と不安が入り交じった複雑な気持ちを抱える2月の聖句は、ヨハネによる福音書3章16節です。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ヨハネによる福音書には、「信じ(る)」という言葉が101回も出てきます。原典のギリシア語(動詞の原形)では、“πιστεύω”という単語ですが、変化形を含めて98回も使われています。ヨハネがこの言葉を大切にしていたことがわかります。しかし、「信じる」ということは、「見えないけれども存在するもの」を理解して受け止めることなので、簡単にできる行為ではありません。それでも、「信じたい」と感じる気持ちは、いつも私たちの心にあるような気がします。

コロナ禍で、自由に出かけたり、会いたい人たちとも簡単に会えない状況が続いています。元気であるだろうか？辛い思いをしていないだろうか？と、世界中でそのような“思い”があふれています。聖書は、このような心配する気持ちが、神さまから私たちにも向けられていることを伝えています。それが「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」という聖句です。この見えない神さまの“思い”を「信じる」ことが、私たちの生きる力となるのです。「見えないけれども存在するもの」を「信じたい」「信じよう」とするとき、その“見えないもの”が確実に存在するのです。

「信じる喜び」を生み出す自分の心の声を聴いてみませんか？そして、「自分の信じるもの」を大切にできたら、きっと「誰かの信じるもの」も大切にできるはず・・・。

## 聖書・キリスト教の“はじめの一步”

## # 11 「永遠の命を得る」

聖書には「永遠の命を得る」という表現があります。「永遠の命」と聞くと、「不老不死」など「ずっと生き続ける」というイメージを持ってしまいがちですが、聖書で示されている「永遠の命を得る」というのは、「人間が人間らしく生きること」「自分らしく生きること」また「人として当たり前のことをすること」を意味しています。例えば、困っている人を助けるなど、誰にでもできる行為です。そして、神さまはそのような生き方を喜んでくださいます。

みなさんも、「自分らしさ」を見つめ直して、自分のことを大切にしてください！



## 2月の予定

月間聖句 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」  
(ヨハネによる福音書3:16)

月間テーマ 「信じる喜び」  
2月は特別礼拝はありません

## JONAN's History # 11

## 労研饅頭と城南<1>



校舎に隣接した工場

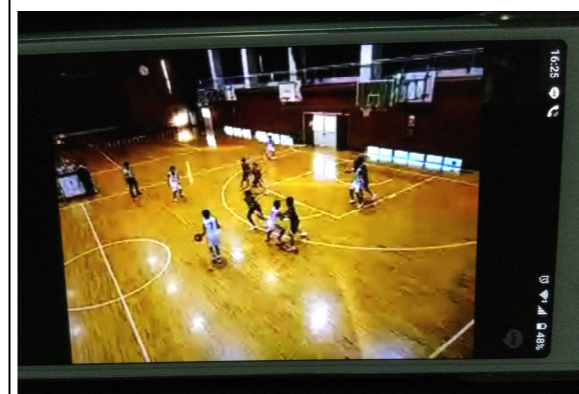
夜学校で数学の教師だった竹内成一先生(左)は、上海から来ていた林樹宝さん(右)の元で製造技術を習得しました。

↑ 創立40周年記念に夜学校で労研饅頭を製造・販売したことが掲載された、当時の新聞記事。  
(1931年10月11日「海南新聞」)

## ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

コロナ禍で、新しいスポーツ観戦のスタイルが確立され始めています。先日、バスケットボール部の公式戦をリモート観戦しました。リアルタイムの動画配信です。会場観戦が許可された数名の保護者のみなさんが協力して、実況付きの配信をしてくださいました。

離れていても応援する気持ちは止められません！！「勝った喜びと負けた悔しさ」を共に感じる事ができました。バスケ部は県大会で準優勝し、四国大会に出場します！！



ポップアップでシュートした選手を確認！！



トリーに残された細やかな実況の様子。